

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2016.10) 平成27年度:83.

POT法による新規MRSA全例検査データを用いた当院における感染対策
について

渡邊 和恵, 渡 智久, 平瀬 美恵子, 大崎 能伸

POT 法による新規 MRSA 全例検査データを用いた当院における感染対策について

○渡邊 和恵¹⁾、渡 智久^{1,2)}、平瀬 美恵子¹⁾、大崎 能伸¹⁾

1) 旭川医科大学病院 感染制御部 2) 旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部

【はじめに】

医療関連感染で問題となる耐性菌は多様化しているが、新規VRE, MDRP, MDRAB等がほとんど検出されない当院において、MRSAによる院内感染は最も問題としているもののひとつである。

当院では2012年10月より、新規MRSA検出全例にPOT法による解析を行っており、同一部署で概ね同時期に3件以上のMRSA検出があった時、伝播経路調査に用いてきた。実際の事例を提示しながらその運用方法と効果を紹介する。

【方法】

基本的に当院の新規MRSA検出が7件になった時点でPOT検査を実施し、過去を含めたデータ

のPOT型別時系列リストから感染制御部で検討する。水平伝播の可能性があると判断された場合、状況に合わせて関係部署にフィードバックする。

【考察】

POT法による新規MRSA全例検査データを用いることにより、伝播経路の特定につながり、病棟以外の設備管理や外来診察室などの幅広い経路の検討もでき効果的な運用ができた。また、他施設からの持ち込みMRSAのPOT型データが収集できることから、今後は地域での感染制御に活用できることが示唆される。